

◀研究ノート▶

# 独大学の「社会学研究所」巡り

—その4—

鈴木 幸 壽

バイロイト大学

Universität Bayreuth

専門分野統合の社会学

Fachinheit Soziologie

バイロイト大学は新しい大学である。専門の社会学—大学の文化科学部に編入されていたのだが—は、一般社会学の講座ができた1985年に新設され、主専攻も副専攻も修士の研究をすることができる。ドクターの称号はDr.phil.(英米のPh.D.に当るもの)である。専門分野は現在、一般社会学の講座をDr.アルノルト・ツィンゲル教授、政治社会学と成人教育の講座をDr.ミヒャエル・ツェラー教授 発展社会学の三つの講座をDr.ヨーゼフ・ググラー教授と期限付きの四人の中級教員(Akademischer Ratという肩書は、教授任用資格をとっていない大学の中級教員の地位である) Dr.ヴァインフリート・ゲープハルト、Dr.ゲオルク・カンパハウゼン、Dr.グートラム・ルートヴァル=エネ、そしてDr.ベルンハルト・プレ(経験的社会研究)が担当している。修士と博士課程の社会学の研究と並んで、この専門分野は、教員養成およびスポーツ経済の学士養成をサービスとしておこなっている。発展社会学の講座は、アフリカ学の修士課程および「アフリカにおけるアイデンティティ」という特殊研究分野を含んでいる。一般社会学の講座

は、国際文化関係と海外文化研究のための学際的構想をもつ研究所の組織にも加わっている。現在約40人の学生が修士課程の社会学に登録している。

専門分野の社会学の研究活動にとっての難点は、目下、文化社会学上の問題にある。このばあい文化は、例えば経済・法あるいは芸術のように、もっぱら社会の特殊分野と見做されているのではなく、それぞれ社会的現実の基本的次元と見做されている。つまり人間の内的=外的世界の構造法則性からは導き出しえないような意味合いを人間の存在に授けるという人間の能力が与えられている。そうした次元の特殊分野が文化なのである。文化科学としての社会学のこうした基本的理解は、さまざまな理論的そして経済的研究に移されているし、文化的諸現象と諸制度、とくにこうした諸現象と諸制度がそのなかで発展していく過程、またそれらを導き出す諸理念と世界像、それらを担う社会集団といったものの把握と歴史的諸文化間の比較社会学的位置づけと分析に移されている。かくして、一般社会学の講座では目下のところ、日常生活のモラルへの生活領域での影響の科学的研究プロジェクト(ツィンゲル)、[名誉]とこのことに関連する行為形式の変化について、「近代化」の過程での内ヨーロッパ的非同時性を顧慮しつつおこなわれている比較文化的研究のプロジェクト(ツィンゲル)、自由主義、実証主義、そして社会主義の世俗的世界像の成立・拡大・

影響についての研究プロジェクト(プレ)また、カリスマ的諸関係の日常化と制度化の社会的・文化的諸形式についての研究プロジェクト(ゲーブハルト)がおこなわれている。政治社会学と成人教育の研究活動の中心に立っているのは、ドイツ連邦共和国における社会環境の崩壊の政治的・文化的継続問題であり、それは経験的データの二次分析の助けをかりて、価値変化の研究から研究されている(ツェラーとキャンプハウゼン)。歴史的比較の観点で国家と宗教の関係を包括的に研究しているし(ツェラー)、またヨーロッパと北アメリカにおける社会科学成立のさまざまな理念史的前提と社会史的状态の研究がなされている(キャンプハウゼン)。(例えば、USAのあたらしい地誌学の協力のかたちで)無数のアメリカ研究にみられるような、アメリカの大学との強力な関係を、このほかに講座は育成している。発展社会学の分野での研究の重点は、さまざまなアフリカ諸国の都市化過程の比較研究と、アフリカ文学の社会学的分析におかれている。

文化科学としての社会学の構想に役立っているのは、ドイツ・イタリアの社会学雑誌「Annali di sociologia (つまり)社会学年報」であり、その編集理事会には、アルノルト・ツィンゲル教授が入っており、ドイツ版編集には、バイロイトにいるベルンハルト・プレが当たっている。同様のことは、「トゥルナウ文化科学会議」にも当てはまる。これは1987年以来、毎年ハンス・マルチン・シュライアー財団の援助を受け、バイロイトの塔の前の旧居城都市トゥルナウで、ミヒャエル・ツェラー教授、ゲオルク・キャンプハウゼン博士、ヴィンフリート・ゲーブハルト博士によって開催され、文化科学のさまざまな分野間の共通の話題をテーマに定めて行なわれている。1987年のテーマは「制度」で、討論がなされた。1988年は国家と宗教の関係が「国家

宗教—神の国—市民宗教」というテーマで会議がおこなわれた。1989年には、経験概念のもつ意味の変化についての会議が計画されている。

最新の刊行物：G.キャンプハウゼン『良心の番人か、神学と教会における社会科学的思考の影響』ベルリン、1986。G.ルートヴァル=エネ『魔法との特殊な関連をもつ西アフリカ社会における個人の不幸の解說的治療的形式』1986 アンソロポロジスト 81号 s.554~565。A.ツィンゲル、C.モンガルデニ編『魔術と近代』ベルリン、1987。W.ゲーブハルト：『祭と日常、人間の社会的現実とその解釈』フランクフルト/ベルン/ニューヨーク/パリ、1987。M.ツェラー：『プロクルテス・システム、組織化された多元主義』オプラデーデン、1988(註、「プロクルテス・システム」とは、無理やりに合わせようとする定まった型をいう。メガラからアテネに行く道中に住んでいた盗賊の故事からでたことば)。J.ググラール編『第三世界の都市化』オックスフォード/ニュー・ヨーク、1988。

執筆者・ヴィンフリート・ゲーブハルト  
(Winfried Gebhardt)

---

**パッサウ大学**  
**Universität Passau**  
**社会学講座**  
**Lehrstuhl für Soziologie**

西独およびバイエルンで最も新しい大学であるパッサウ大学は、1978年10月9日に開学された。哲学学部では、1981年11月16日付でDr.アルプレヒト・(アルフ)・ミンツェル教授が社会学講座担当に任命され、その職についたことによって専門分野としての社会学が始まったので

ある。パッサウ大学の基本構想は、社会学の専門を哲学学部内の広い専門規準内では、最小限「小専門」にしているが、それはとくに「小・中・と実業学校ならびにギムナジウムの教職につく学生の養成」に役立つべきだとしているのである。こうした構想に従って、(現在はDr.クラウス・ローダックスが就いているのだが) 正規の大学教授の資格をもっていない地位にある社会学の教授が一人配置された。この教授は研究助力者でもあるし、事務職も半分兼ねている。専門の社会学の定着と設置とは1981年末以来「伝統を失くしたまま」になっている。講座担当者は(1978年死去した)オットー・シュタンマー周辺のベルリンの協力者やかれの弟子グループ、そして自由ベルリン大学の社会科学中央研究所から来ていた。Dr.ローダックスは、ビーレフェルト大学からきた。

社会学の研究は、主専攻では修士課程、副専攻ではできれば教職課程の枠になっている。主専攻研究は修士号を与えられ、さらには、大学院博士課程に進んで(Dr.phil)教授任用資格も得られる。主=副専攻ともに基礎の研究条件は同じである。

社会学と政治学という二つの社会科学間の密接な相互関係は、経験的社会研究の方法と技法における両専門分野の統合的基礎作りに示されている。社会学の分野での重点としては社会科学教授法が選ばれている。

「二人の間での教育の営み」という最小の構想の求めるものは、基礎的そして中心的な勉学内容へ全力を集中することである。この構想は、(a)主=副専攻において、しっかりした基礎研究を保証することができるし、(b)社会学の中核領域では、他の学科や研究課程のために部分的に規定の勉学内容を提供できるし、そして(c)専門分野では政治社会学と社会構造分析という部分領域、また古典を集中的に勉学する科目を扱う

ることにもなる。したがって授業計画はきちんと組織立てられているし、一定の順序に即して作られている。(主=副専攻での修士課程となる)基礎研究では、順次必修として(1)社会学史と問題提起、(2)社会学の基礎概念、(3)特殊社会学もしくは社会学の理論入門(4)産業社会における階層と移動、(5)(統計学を含めた)経験的社会調査の方法・技法入門が課せられている。社会学の中間試験は、この五つの必修科目を首尾よく得た者にのみ課せられる。主専攻社会学の必修は次の通りである。(1)統計学のIとII、(2)経験的社会調査の方法と技法II、(3)(2)の分野からの社会学の初級演習と(特殊社会学と一般社会学の分野での)二つの中級ゼミナール。経験的社会調査の方法と技法IとIIのコースは(現在はミュンヘンのDr.ヴォルフガング・ルートヴィヒ非常勤講師担当だが)非常勤講師がおこなっている。

パッサウ大学での専門としての社会学は、はじまってから主として、政治学・文化地理学・教育学・歴史学といった専門の副専攻的機能もっている。社会学が加わっているのは、哲学学部という枠内で(1987~88年に全体で844人という)学生数の増加比率に合わせるためであり、本来哲学部におかれた専門分野に所属しているのである。1987~88年の各学期には、主専攻修士課程の学生が16名、副専攻75名の学生が登録したが、これになお約30名の教職課程の学生が加わっていた。

講座で研究がなされているのは、主として政党社会学(ミンツェル)の分野と教育および教育制度(ローダックス)の社会学の分野である。1988年に向けて計画されていた教授資格を正式にもっていない第二番目の教授職(生涯に亘るもの)と第三の教授職とは、1987年に「社会科学的研究の政党研究のための研究グループ」を講座にすることが可能になった。政党研究は、党派的・

民主的支配組織をもつ、進展する産業社会における大政党の組織体系と行為体系、また例えばバイエルンのような社会変動のなかの政党組織などに集中されている。

最近の刊行図書：アルフ・ミンツェル、『国民党：タイプと現実』オプラーデン、1984（西ドイツ出版社）。アクセル・ボルダー、クラウス・ローダックス（編）：『延期された報酬の原理。職業にとっての勤労少年の社会化』ボン、1987（ノイエ・ゲゼルシャフト出版社）。クラウス・ローダックス（編）『1950年から1985年までの教育参加の構造変動』ダルムシュタット、1988（ヴェッセンシャフト出版社）。

執筆担当 アルフ・ミンツェル  
(Alf Mintzel)

#### 訳者おことわり

この「西独—もはや西独という国名はなくなったが—の大学の社会学研究所めぐり」は「ドイツ社会学会会報」(Mitteilungsblatt der Deutschen Gesellschaft für Soziologie. 年二回刊行)に1986.2. 1987.1そして1988.1の三号にわたって Soziologische Institut stellen sich vor

というタイトルで紹介されたものを、日本の社会学研究者にも参考に資するため、本紀要をかきりて翻訳転載したが、1988.1号以降は掲載されていない。再び掲載されたばあいには、引続き紹介したいが、今回をもって一応終了することとしたので、ご諒承いただきたい。なお紹介掲載された大学研究機関名は下記の通りである。

- (1) Universität Karlsruhe-Institut für Soziologie
- (2) Universität Stuttgart-Institut für Sozialforschung, Abteilung für Soziologie und Sozialplanung
- (3) Technische Universität Braunschweig-Seminar für Politikwissenschaft
- (4) Universität Hamburg-Institut für Soziologie
- (5) Universität Kiel-Institut für Soziologie
- (6) Universität Bayreuth-Facheinheit Soziologie
- (7) Universität Passau-Lehrstuhl für Soziologie

(すずき ゆきとし、本学科主任教授)